

港区白金発！明治学院大学学生×白金志田町倶楽部の草の根的協働のモデル

○はじめに

白金志田町倶楽部（以下、志田町倶楽部、参照HP：<http://www.ifaps.org/kai.html>）は、「新しく住む人」「古くから住んでいる人」「働きにきている人」そして「離れていても、このまちや人に親しみを持つ人」など、白金地域に愛着を持つ人々が集まり、共に白金地域の活性化を目指す団体である。本学がある白金という町で明治学院大学の学生だからこそできる活動を行いたいと学生有志らが集まって、2008年4月から志田町倶楽部の活動に参加し、2008年6月25日に白金志田町倶楽部明治学院大学学生チームが正式に発足した。私たちは①地域の活性化を目指した地域住民と明学生による草の根的協働活動のモデルの創造②地域で学生が主体的に活動することができる場の構築を目指し活動している。奨励金は、活動の際に着用する志田町倶楽部オリジナルウインドブレーカー、Tシャツに充てた。学生が活動する際に着用することで、地域の方へ安心感を与え、学生のモチベーション向上の効果が見られた。

○活動内容

白金の町の中で明学生が志田町倶楽部の方々と今後長期的に協働をしていくための基盤を築くために2つの軸で活動を行ってきた。1つ目は、志田町倶楽部の活動への日常的な参加である。5月に行われた「第2回シロカネストリートフェスタ」への運営準備段階からの参加、東京・白金と西アフリカ・ブルキナファソの子どもたちをつなぐ4者間同時中継プロジェクト（志田町倶楽部×世界銀行×JICA×明治学院大学学生チーム）の開催に向け、イベント当日のオープニングムービー作成の為に打ち合わせや、防犯防火パトロールへの参加、新年の餅つきなどに参加した。このように志田町倶楽部の方と明学生が同じ現場で活動することによって、お互いに信頼関係が芽生えたのではないかと思う。2つ目は、学内に向けた活動の広報である。具体的には、明治学院共通科目「ボランティア学3」や白金学生スタッフ主催合同説明会¹⁾での呼びかけ、志田町倶楽部、教員、ボランティアセンターコーディネーターと明治学院共通科目「ボランティア学2」で協働した。これらを通して興味を持ってくれる学生が増えてきたが、教職員の方との交流がまだまだ少ないように思う。ボランティアファンドというシステムを大学が取り入れているだけに、学生の活動が教職員の中で周知がないことは残念に思った。

○最後に

日々お世話になり、受賞をHP上にまで発信してくれた志田町倶楽部の皆様、親身に相談に乗ってくれたボランティアセンター及び大学機関の方々、多忙な中学生の可能性を最大限引き出せるよう本気で向き合ってくれた李コーディネーター、そして活動に参加してくれた学生。この活動は、「少しでも力になるのなら」という想いで協力してくれた方々が、自分の出来ることを積み重ねた結晶だと思う。この場をお借りして心から感謝の意を申したい。

（心理学部心理学科3年 山田純平）

¹⁾ 詳しくは本書「白金校舎学生スタッフ活動報告」を参照。